



健康テラス

脂肪肝

脂肪肝とは、脂質の一つとされる中性脂肪が肝内に多く蓄積する状態です。原因は多数ありますが、アルコール性、過栄養性などがあります。飲酒をしすぎる人に起こるアルコール性のものと、摂取していないのに生じるものがありメタボリック症候群との関連性が指摘されています。非アルコール性には進行しないものが多いですが、なかには徐々に進行して脂肪肝炎や肝硬変、更に肝ガンになるものもあります。脂肪肝は明らかな自覚症状が現れにくく、進行して食欲不振やだるさ、右上腹部の違和感が現れるようになります。脂肪

肝はその種類によって治療法も変わります。アルコールを抑えることや、食べ過ぎないようにするなどの注意が必要です。



西田医院
西田 一先生



新しい便秘薬

便秘薬には刺激性と非刺激性があります。

酸化マグネシウムやプルゼニドなどは、昔からある定番の薬で、新薬に比べると安価で、多くの方に使われています。酸化マグネシウムは非刺激性の代表薬で、長期に使えますが、高齢者や腎臓が悪い方では血液中のマグネシウムが多くなり過ぎることがあるため注意が必要です。一方、プルゼニドは大腸を直接刺激し大腸の運動を活発にする刺激性の代表薬で効果は強力ですが、繰り返すことで減弱しますし習慣性もあります。

これに対して近年発売された新薬は、やや高価であるものの、生理的な作用に近く、長く使い続けても効果が落ちることはありません。いずれも水分を増加させることで便を軟らかくしたり、大腸の動きを活発にすることで排便を促すタイプの薬です。また、体に殆ど吸収されないか、吸収されても速やかに分解されるので、より安全とされています。例えばモビコールというお薬は粉を水に溶かして飲むタイプで、2歳児から安心して

使えるお薬です。グーフィスは食前に服用し胆汁酸を増やすことで大腸の運動を引き起こし大腸への水分分泌を増やすお薬です。これは使用開始時に腹痛を感じる方もいますが慣れるようです。アミティーザは小腸を活性化し腸内への水分分泌を増やします。ただし妊婦には使えません。

このように新薬はより生理的な作用ですが向き、不向きもありますので主治医の先生によく相談し処方してもらいましょう。

最後に腸内環境と免疫力には密接な関係がありますので、便秘を解消し腸内環境を整え免疫力のアップを心がけましょう。



おおふくじ医院
浦田 恵先生

